

令和元年度 全国学力・学習状況調査の結果

京都市立小栗栖中学校

4月18日に、全国の中學3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施され、今年度の3年生が参加しました。本調査では、国語、数学、英語の3教科のテストと同時に、生活実態や家庭学習状況に関するアンケートも実施されています。本校の生徒の実態について、すべての保護者様に関心をもっていただきたく、返ってきた調査結果の一部になりますが、分析も加えて以下にご紹介します。

総合結果（国語、数学、英語）

この度の調査の正答率は、国語、数学、英語とも全国平均を下回る結果となりました。しかし、日々の授業に向かう姿勢は年々意欲が向上しており、共に学ぶ姿勢が育っています。更なる基礎の定着をすすめるとともに、「全国調査」で問われたような応用問題にも対応できる力をつけましょう。

国語	全国、京都市と比べると低い結果となりました。話し合いや意見文の問い合わせで適切な解答を選択すること・短歌の感想を書くことは比較的できていました。反面、文章を理解した上で設問の答えを文章で書くこと・封筒の書き方に関する問い合わせは困難で、正答率が低く、無回答率は高かったです。日頃から自分の考えを持ち、書く習慣をつけること、そして難しいと感じても解答に挑戦・向き合う気持ちや姿勢を養ってほしいと思います。
数学	全国、京都市と比べると低い結果となりました。領域的に見ると、図形や資料の整理は比較的できていた。やはり関数が苦手である。観点別に見ると、数学的な見方や考え方に関する問題に難がある。問題形式では、記述式が出来ないようで、無回答率も高かった。すぐに解答できる問題には取り組めるが、じっくり考えて解答する問題になかなか意欲的に取り組めない現状があるので、そのあたりを意識して学習に取り組んでもらいたい。
英語	全国、京都市と比べると低い結果となりました。「聞くこと」は比較的できましたが、「書くこと」が苦手なようです。特に、まとまった文を書く問題では無回答率も高くなっています。また、「話すこと」については、正答率が全国を上回ったものもあり、無回答率は全国に比べて低く、何か話そうとする意欲が見られる結果となりました。学習した文法や表現を使って応用問題にも対応していくように、日頃から英語を使う練習をしていきましょう。

肯定的に答えた生徒は約82.2%。

全国は約76.6%。京都市は約75.8%。

生徒質問紙調査から（1）

Q. 1・2年生のときに受けた道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか。 単位：%

	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
本校	28.8	53.4	11.0	5.5
全国	34.0	42.0	17.3	5.7

全国と比べ、京都市の平均結果が下回る中、本校の生徒は道徳の授業で自分の考えを深めたり、話し合ったりすることに意欲的なことが分かりました。道徳の授業を通して、他人の考えを知り、自分の成長につなげたようです。それは、学級活動にも活かされ、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていると答えた生徒は、全国・京都市を上回っていました。

生徒質問紙調査から（2）

Q. 学校の規則を守っていますか。

	当てはまる	どちらかと言えば 当てはまる	どちらかと言えば 当てはまらない	当てはまらない
小栗栖中	38.4%	50.7%	9.6%	1.4%
全国	66.8%	29.4%	3.1%	0.6%

規則をしっかりと守っていると感じることは、お子様が充実した学校生活を送ることにつながります。多くのお子様が概ね規則を守ることができていることが伺えます。「当てはまる」と自信を持っていえることは、そのまま自身の生活や活動に自信をもつことにつながります。学習、行事、や生徒会活動など様々な活動をやりきったあとに得られる自信や充足感を今以上に高めることができる要素の一つになると考えています。現状でも決して、規則をないがしろにしているわけではないと思いますので、お子様のさらなる学校生活の充実のために今後もご協力をいただきますよう、よろしくお願ひいたします。

Q. 難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか

	当てはまる	どちらかと言えば 当てはまる	どちらかと言えば 当てはまらない	当てはまらない
小栗栖中	9.6%	57.5%	24.7%	8.2%
全国	22.5%	47.8%	25.0%	4.6%

難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦することは、夢や目標を持つこと、強いては学習への意欲にもつながります。本校3年生は、「どちらかと言えばあてはまる」は全国の数値を越えていて、半分以上の人人が、挑戦していることが伺えます。これからも、自信をもってたくさん挑戦できるひとたちに成長してほしいと願っています。そのためには、目標を持つことが大切です。15歳で将来の具体的な目標を持つことは難しいかもしれません。まずは、小さな目標（学期の目標、1年後の目標、教科別の具体的な目標など）を持ち、それを達成しようとすることが大切です。その気持ちが学習意欲の向上につながり、意欲的に学習・学校生活を送ることで必ず学力を伸ばすことができます。努力して学力がつけば、それは将来、挑戦する力になります。頑張ろう、3年生。

全体を通した本校の成果と課題

本校では、1年生のときからペアワークを基本とした話し合い活動を取り入れ、学び合いを大切にしてきました。集団になるには、友達の話を聞いたり、折り合ったりする必要があります。質問紙の中で、94.6%の生徒が「ものごとを最後までやり遂げて嬉しかったことがある」と答えています。様々な事を、ぶつかり合いながらも、乗り越えていった証拠ではないでしょうか。日々の授業や学級活動、道徳の授業の中で、色々なことを学んだ結果、集団として成長したのが成果だと考えます。

勉強が好きかという問い合わせに対して、半数以上が好きではないと答えています。好きではないことに対して、授業中は前向きに努力していると思いますが、やはり課題は家庭学習です。全くしない～1時間未満は全国が30%，京都市が35.9%に対し、本校生徒は72.6%です。基本的な生活のリズムをつくるとともに、学習する習慣、環境を整える必要があると考えます。放課後学習を活用するのも一つだと思いますよ。

保護者のみなさまへ

学力は、学校を中心に家庭や地域と連携をはかりながら、様々な活動を経験し、体験させることで、定着し向上していくものです。引き続き、保護者の皆様には、子どもたちの健やかな成長と、学びの環境作りにご協力いただけますよう、宜しくお願いします。